

(参考様式2) 社会資本総合整備計画 (社会資本整備総合交付金)

令和元年12月11日

計画の名称	新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進 (第2回変更)										重点配分対象の該当														
計画の期間	平成27年度 ~ 平成31年度 (5年間)					交付対象	葛飾区																		
計画の目標	<p>新小岩駅地区は、葛飾区の南部に位置し、駅を中心に区内最大の繁華街を形成し、その周辺に住居系地域が広がっている。駅南側に駅前広場があるが、交通が集中し混雑が著しいため、駅東北側に新たな交通広場を整備した。駅周辺は、J R線 (総武線) と補助第140号線 (平和橋通り) によって大きく4つのエリアに分断されており、特に線路で分断された南北間の歩行者動線は、J R線と立体交差している平和橋通りのみであり、その歩道は駅改札から離れており掘割状で幅員も狭く、歩行者と自転車が交錯するなど、歩行者にとって安全性と利便性に欠けている。駅の日乗降客数は約14万人であり、エスカレーターや車椅子用リフトは整備されているが、エレベーターが無く、十分なバリアフリー化がされていない状況である。</p> <p>区では、平成13年に都市計画マスタープランを策定し、新小岩駅周辺を「魅力的で身近な広域生活拠点」と位置付け、広場や自由通路の整備、地元商店街の活性化など総合的な都市基盤・環境整備を進め、交通機能、商業・生活サービス機能の充実及び駅周辺の一体性・回遊性の向上を図るとしている。補助第330号線 (東北交通広場)、葛飾歩行者専用道第1号線は、平成22年度に整備が完了し、現在、南北の駅前広場を往来できる南北自由通路を整備中であり、両広場の交通結節機能の向上とバリアフリー化を図っていく。</p>																								
計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由通路整備に関連するバリアフリー事業を促進する。</li> </ul>																								
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (H27当初)</th> <th>中間現況値 (H29末)</th> <th>最終目標値 (H31末)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のバリアフリー化率 <small>バリアフリー化率(%)=(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業のうち完了した事業数)/(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業総数)</small></td> <td>25%</td> <td>63%</td> <td>88%</td> <td>BF特定事業は、“葛飾区新小岩駅圏移動等円滑化特定事業計画”の中で位置付けられている。</td> </tr> </tbody> </table>													定量的指標の現況値及び目標値			備考	当初現況値 (H27当初)	中間現況値 (H29末)	最終目標値 (H31末)	自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のバリアフリー化率 <small>バリアフリー化率(%)=(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業のうち完了した事業数)/(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業総数)</small>	25%	63%	88%	BF特定事業は、“葛飾区新小岩駅圏移動等円滑化特定事業計画”の中で位置付けられている。
	定量的指標の現況値及び目標値			備考																					
	当初現況値 (H27当初)	中間現況値 (H29末)	最終目標値 (H31末)																						
自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のバリアフリー化率 <small>バリアフリー化率(%)=(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業のうち完了した事業数)/(自由通路に隣接する駅及び生活関連経路のBF特定事業総数)</small>	25%	63%	88%	BF特定事業は、“葛飾区新小岩駅圏移動等円滑化特定事業計画”の中で位置付けられている。																					
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	8,734百万円	A	8,734百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C+D)	0.0%													
<b>交付対象事業</b>																									
<b>A 基幹事業</b>																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考								
1-A-1	交通	一般	葛飾区	直接	葛飾区	新小岩駅地区都市交通システム整備事業	自由通路 延長L=98m、幅員W=10m	葛飾区	H27	H28	H29	H30	H31	8,734											
									合計					8,734											
<b>B 関連社会資本整備事業 (該当なし)</b>																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考								
									合計					0											
<b>C 効果促進事業</b>																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考										
									合計					0	-										
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考													
国費外	南口駅前広場再整備を、基幹事業(1-A-1)と一体的に実施することにより、駅を中心とした連続したバリアフリー空間が形成される。																								
国費外	北口広場整備を、基幹事業(1-A-1)と一体的に実施することにより、駅を中心とした連続したバリアフリー空間が形成される。																								
<b>D 社会資本整備円滑化地籍整備事業 (該当なし)</b>																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考										
									合計					0											

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
配分額 (a)	232.000	475.400	227.000	373.757	583.587	
計画別流用 増△減額 (b)	0.000	△ 49.200	0.000	0.000	0.000	
交付額 (c=a+b)	232.000	426.200	227.000	374.000	583.587	
前年度からの繰越額 (d)	137.200	73.694	60.600	69.000	0.000	
支払済額 (e)	295.506	439.294	219.061	443.000	583.587	
翌年度繰越額 (f)	73.694	60.600	68.539	0.000	0.000	
うち未契約繰越額 (g)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
不用額 (h = c+d-e-f)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	-	-	-	-	-	

- ※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。
- ※ 平成31年度は、決算額が確定でき次第記載。



# 社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称: 新小岩駅地区の交通結節機能向上及びバリアフリー化の推進 事業主体名: 葛飾区

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①上位計画との適合等 (葛飾区基本計画、都市計画マスタープラン、葛飾区新小岩駅圏移動等円滑化基本構想等)	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえて、地区の整備目標が設定されている	○
2)バリアフリー化の必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③整備計画の目標と定量的指標の整合性	
1)目標と指標、数値目標の整合性が確保されている	○
2)指標・数値目標が区民にとって分かりやすいものとなっている	○
④事業の効果(要素事業の相乗効果等)の見込みの妥当性	
1)十分な事業効果が確認されている	○
III. 計画の実現可能性	
⑤円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い	○
2)計画について住民等との間で合意が形成されている	○
⑥地元の機運	
1)住民等と協力して計画を策定している	○
2)継続的なまちづくりの展開が見込まれる	○